

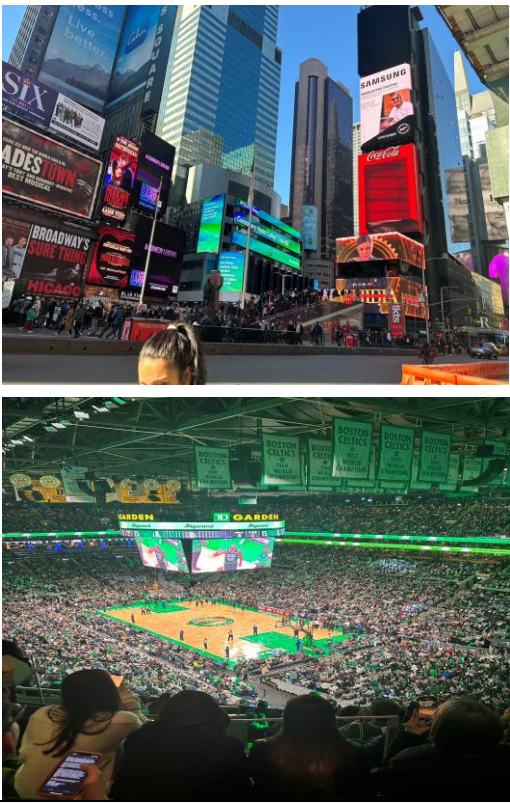
おすすめポイント reason for recommendation

このプログラムは自由時間に現地で仲良くなった現地学生と個人的に遊びに行くことが多い。そのため、アメリカでしたいことやいきたいところに連れて行ってもらい遊ぶことができる。それはとても楽しいし、現地学生とは英語で話すため英語を学んでもっと話せるようになりたいと感じて、英語を学ぶモチベーションにつながる。

海外体験報告 (Overseas experience report)

看護学専攻 1年 氏名 佐々木穂香 渡航先 マレーシア	
<input checked="" type="checkbox"/> 海外研修 <input type="checkbox"/> 海外留学 <input type="checkbox"/> 海外学会参加・発表 <input type="checkbox"/> その他 () 利用制度/学会名 (SAP)	
渡航期間period	8月19日 ~ 9月10日 (23 日間)
費用cost	(全体経費) 航空費+滞在費+海外保険+生活費= 約 24万 円 その内、財政支援 7万 円(財源: JASSO)
渡航のための準備Preparatory activities (事前研修プログラム、独自での語学勉強、下調べなど) 事前研修は3回行われ、顔合わせや現地調査、マラヤ大学からの留学生と前回のプログラム参加者からお話を聞く機会もあった。また日本の文化について5分程度のプレゼンテーションを準備したり、学びのシートを作成したりした。パンフレット作製では、それぞれ二人のペアを作りお互いにインタビューえおして自己紹介ページを作った。現地調査ではグループごとでテーマを決め、現地でのでの生活で役立ちそうなことについて調査した。	
渡航経験からの学びWhat I learned from this experience? 今回はEnglishCourseに参加したため、Reading&Vocuburaly, Writing&Composition, Grammar Usage, Speaking&Pronunciation の4つの授業があった。授業はすべて英語で行われるため、中高で学んだ英語の文法や文構成などをもう一度英語で復習することができ、日本では体験できないオープンな雰囲気での授業を受けることができた。 文化について、研修前、宗教はデリケートな事だからあまり聞かない方が良くのかなと思って踏み込んだ質問をしなかった。しかし思い切って質問してみるとバディたちは快く答えてくれたし、そこまで厳格でない人もいたんだと感じた。日本にいると宗教について考える機会はないし、調べるとしたらネットからの情報に限られてしまう。現地の人にしか分からない宗教感に触れることができ、貴重な体験だった。もう一つ感じたとは、それぞれが自分たちの国やルーツについて良く知っている、理解しているということである。バディたちに文化や伝統について質問するとすぐ答えてくれた。私は留学生から日本の文化について聞かれたことがたまにあるが、答えられないことが沢山ある。自国の伝統や歴史についての知識を得て、紹介できるようになりたいと感じた。日本と同じアジアに位置する国であるが、日本とはまったく異なる価値観や様々な文化に触れることができ、視野が広がったと感じる。	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>	
写真の説明 legends of photo 上: ツインタワー 下: 参加者全員の集合写真	
おすすめポイントreason for recommendation このプログラムでは、マラヤ大学の学生が自分のバディとしてサポートしてくれる。分からないことがあったらすぐ聞けるし、他のバディとも仲良くなることもできた。また日本の他の大学からも参加していたため、マレーシアだけでなく、日本の県外の友達も増えた。マレーシアで3週間を共に過ごした仲間たちとは今でも連絡を取り合うほど仲が深まった。また、このプログラムのおすすめポイントは他のプログラムよりも比較的安価で行くことができることである。物価が安いこともあるが、食事やサポートも充実していて値段以上の事を体験することができる。特に宗教や言語について、日本では体験できない多文化を肌で感じる事ができた。	

海外体験報告 (Overseas experience report)

看護学専攻 2年 氏名 堀内真歩 渡航先 アメリカ (ニューヨーク州立大学オルバニー校)	
☑海外研修 ☐海外留学 ☐海外学会参加・発表 ☐その他 ()	
利用制度/学会名 (SAP)	
渡航期間 period	2023/02/11 ~ 2023/03/13 (31 日間)
費用 cost	(全体経費) 航空費+滞在費+海外保険+生活費 = 約 50万 円 その内、財政支援 8万 円 (財源: 東北大学)
<p>渡航のための準備 Preparatory activities (事前研修プログラム、独自での語学勉強、下調べなど)</p> <p>この研修では英語を学ぶだけではなく、海外での生活を通して他の文化に触れることや、自分の行動力や協調性を育てることも目的としているので、主に言語運用能力、異文化適応能力、行動力に関して、研修前の状況から研修中に達成する目標を立て、その目標を達成するまでの計画をまとめて提出する必要がある。また研修後には、その目標の達成度とそれからの目標をまとめて提出する必要がある。</p> <p>また、渡航に必要な書類 (ESTA やコロナ関連の書類など) は自分で用意するが、留学生課や担当の教員から案内があるので、それに従えば問題はなかった。</p>	
<p>渡航経験からの学び What I learned from this experience?</p> <p>現地では主に、平日は授業で放課後には様々なイベントが用意されていて、土日は基本的に自由時間となっていた。</p> <p>授業は、英語を第一言語としない人にアメリカ人の先生が英語を教えるプログラムに1ヶ月参加するもので、現地の大学生と同じような生活を送りながら、様々な国の人と話すことができたので、日本ではあまり関わることのない多くの文化に触れることができた。さらに、多文化に触れることで自分の国がどのような国で、どのような文化を持つのかを知ることができた。</p> <p>英語を学ぶことができたのはもちろんで、他にも様々な国から来た学生と交流した。個人的な体験としては、アルバニア、セネガル、ウガンダ、韓国、中国、ベトナム、ブラジル、トルコ、アルジェリア、イエメンから来た学生と知り合うことができ、その国について質問したり、日本のことを説明する機会があった。その中で日本の良さや他の文化の良さに気づくことができた。</p> <p>休日には、ニューヨークのマンハッタンやボストン、その</p>	 <p>写真の説明 legends of photo</p> <p>上: タイムズスクエア</p> <p>NYC に行った。日本にはない街並みを見ることができた。また、アメリカが人種のるつぼと言われる理由も改めて理解</p>
<p>大学のある地域の中心街やモールに自分たちで行くことが</p>	

<p>でき、1ヶ月ではあるもののアメリカでの生活を体験することができた。学生のうちに1ヶ月だけでも海外で生活できたことで今後の選択肢が広がり、将来を決めていく上で非常に役立つと思う。</p>	<p>できた。 下：NBAの試合観戦 ボストンでNBAの試合を観戦をした。 海外でスポーツ観戦ができたことは貴重な体験の1つになった。</p>
<p>おすすめポイント reason for recommendation</p> <p>このプログラムはSAPの短期研修の中でも1ヶ月と最も長いことが私のおすすめポイントである。最初の2週間は時差ぼけと現地での生活に慣れることであつという間であり、後半の2週間に入ってやっと自分から積極的に英語を話すことや、週末や放課後に他国の留学生とでかけることができた。私にとってこの1ヶ月は、人生の中で1番と言って良いほど短く感じ、さらに1番充実していた。今後SAPで短期研修に行くことを考えている方々には、期間が1番長い1ヶ月のプログラムをぜひ選択して欲しい。</p>	

海外体験報告 (Overseas experience report)

看護学専攻 3年 氏名 鈴木穂香 渡航先 マレーシア	
<input checked="" type="checkbox"/> 海外研修 <input type="checkbox"/> 海外留学 <input type="checkbox"/> 海外学会参加・発表 <input type="checkbox"/> その他 () 利用制度／学会名 (SoSHIP (Social Science and Humanities Immersion Programme))	
渡航期間period 2/13(月) ~ 3/3(金) (19日間)	
費用cost オンライン受講料 = 3万円 財政支援 0円	
渡航のための準備Preparatory activities (事前研修プログラム、独自での語学勉強、下調べなど) <p style="margin-top: 10px;">事前研修は、1月18日(水)18:30~20:30に行われ、同じプログラムに参加する東北大学の学生との顔合わせや自己紹介を踏まえたアイスブレイクが行われた。事前研修の終わりにはLINEを交換する時間が設けられ、プログラム開始前から同じプログラムに参加する学生と連絡を取り合うことができた。また、事前課題には、5~7分程度の自己紹介・東北大学紹介プレゼンテーション、自分の学習目標と計画を立てた学びシートの提出があった。プログラム終了後にプログラム開始前に立てた学習目標や計画についての振り返りを行った。</p>	
渡航経験からの学びWhat I learned from this experience? <p style="margin-top: 10px;">今回のプログラムにおける成果の1つは、英語の4技能の中でも自分のSpeaking能力、Listening能力に関する課題を知り、それに対する対処方法を考えることが出来たことである。私は、これまでSpeakingとListeningに苦手意識があったが、具体的にどのような課題があるのか、ということは明確化できていなかった。そこで、このプログラムでは、この2つの技能に関して自分の課題を明確化するということが自分の中の目標の1つであった。</p> <p>ListeningとSpeakingに関して、共通に感じた課題は「語彙力のなさ」である。特に、Politics & IRの授業では、政治や国際関係で用いられる単語を聞き、理解するのに時間がかかった。さらに、歴史を学ぶこと自体が中学生以来であり、事前知識も乏しく、聞こえてきた単語を推測することも難しかった。このような課題に対して、私は事前に政治や国際関係で使われる英単語を調べることで対処しようと試みた。その結果、授業を受ける中で事前に学んだ英単語が聞き取れた時は素直に嬉しかった。このように、自分の課題を知り、対処方法を考え、それが自分の学びに活かされるという経験は自分にとって非常に意味のあるものだった。</p> <p>そして、Speakingに関しては、完璧な文法と英単語で話さなければならないという「完璧主義」の考え方がSpeaking能力の向上を妨げていたということが分かった。今回のプログラムでは、現地の学生もオンラインの学生も文法や英単語の正解にとらわれるのではなく、自分の知っている文法や英単語を用いて、ジェスチャーや表情を使いながら一生懸命に自分の意見を相手に伝えていた。このような場面をみて、間違いを気にするのではなく、自分の運用できる英語で「伝えようとする姿勢」がコミュニケーションをとるためには重要であるということに気付くことが出来た。このことを実感していく中で、自分の中で英語を話すということへの抵抗感が徐々になくなり、以前と比べると自分の失敗を恐れず、積極的に英語を話そうとする姿勢が身に付いたと感じている。そして、そのような姿勢でバディとの会話や授業に臨むことができたことは自分にとって意味のある経験だったと考える。</p>	  <p style="margin-top: 10px;">写真の説明 legends of photo (上)現地の学生・現地に留学している日本学生・オンライン留学生の集合写真 (下)ZOOM交流時のバディとの写真(左上・下:日本学生、右上:現地学生)</p>
おすすめポイントreason for recommendation <ul style="list-style-type: none"> ・3万円という金額で、全て英語で行われる充実した授業を受けることができる。 ・バディとのLINEやZOOMでの交流を通して、日常で使われる英語を学ぶことができる。 ・英語を話すことへの抵抗感を減らすことができる。 	

海外体験報告 (Overseas experience report)

看護学専攻 3年 氏名 小林優衣 渡航先 ドイツ	
☑海外研修 ☐海外留学 ☐海外学会参加・発表 ☐その他 ()	
利用制度/学会名 (FL / Faculty Led Program)	
渡航期間 period	2023/03/04 ~ 2023/03/20 (16 日間)
費用 cost	(全体経費) 航空費+滞在費+海外保険+生活費 = 500,000 円 その内、財政支援 80,000 円 (財源: JASSO 奨学金)
<p>渡航のための準備 Preparatory activities (事前研修プログラム、独自での語学勉強、下調べなど)</p> <p>11月中旬から、プログラム独自のパダボーン大学の学生との合同研修2回、東北大生のための研修2回がありました。また、事前研修以外の時間に、グループ内で1週間~2週間に1回程、パダボーン大学の学生と共に調査テーマの検討や各自の進捗具合を議論・報告しあうミーティングを行っていました。現地での発表に向けた準備はもちろんですが、最終日に行われる Intercultural Night というパーティーの準備も同時並行で行います。自分自身では、英単語の復習・TEDによる聞き取り練習を行い、日本とドイツの文化について事前に調べました。</p>	
<p>渡航経験からの学び What I learned from this experience?</p> <p>ドイツ・日本の移民政策・支援における課題をテーマとした国際共修 PBL 型研修に参加しました。最初はドイツの歴史 (主に移民史) についてパダボーン大学の教授からご講義いただき、その後は実際に移民としてドイツにいられた方や、移民・難民支援を行っているソーシャルワーカーの方々のお話を聞いて質問する機会が多くありました。私のグループでは、ドイツと日本の雇用市場における経済面での魅力・課題を扱い、個人の調査やグループメンバーとのディスカッションを通して、ドイツの移民受け入れに開放的かつ公平性を担保した制度と比較した、日本の移民受け入れ制度の問題点をより深く考えることができました。</p> <p>また、このプログラムでは大学のあるパダボーンだけでなく、ケルン・デュイスブルク・ベルリンと多くの都市を回りました。ドイツの歴史的建築物や文化に触れるだけでなく、ユダヤ人のための記念碑 (ホロコースト記念碑) や東西冷戦の象徴であるベルリンの壁等にも訪れ、改めて平和とは何かを考えさせられる研修となりました。</p>	 
<p>写真の説明 legends of photo</p> <p>(上) 授業で移民の方からのお話を聞いている様子</p> <p>(下) ケルン大聖堂前の集合写真</p>	

おすすめポイント reason for recommendation

このプログラムは、移民・難民について学ぶことが主たる目的ですが、大学のあるパダボーンを含め、多くの都市を巡るため、観光も十分に楽しめるプログラムとなっています。その中で、各都市の街並みや人々の雰囲気と比較して、社会の構造やドイツの歴史を肌で感じることができました。

また、私はスピーキングへの苦手意識が強く、事前研修開始当初は英語で自分の意見を発信することがなかなかできませんでしたが、ドイツ出発前に何度もグループ内でミーティングを重ねることで、英語を話し、意見するということに慣れていきました。英語を話すことに抵抗を覚える人は少なからずいると思いますが、事前研修が非常に充実しているので、安心して現地に出発できます。そして、発表の内容をより充実させるために、移動時の電車内や街、市場等で、現地の方に英語で話しかけることも求められるので、積極性を身につけたい人にはおすすめのプログラムです。

おすすめポイント reason for recommendation

旅行でドイツに行けば1週間で40万かかるが、留学だと20日で40万円かつ奨学金ももらえる。海外に行ってみたいと考えている学生におすすめ。同年代のドイツ人学生と交流したり、ご飯を食べたり、お酒を飲んだり楽しい。

海外体験報告 (Overseas experience report)

看護学専攻 2年 氏名 室田絢香 渡航先 シェフィールド (イギリス)	
<input checked="" type="checkbox"/> 海外研修 <input type="checkbox"/> 海外留学 <input type="checkbox"/> 海外学会参加・発表 <input type="checkbox"/> その他 () 利用制度/学会名 (冬 SAP)	
渡航期間 period	2023/03/05 ~ 2023/03/26 (21 日間)
費用 cost	(全体経費) 航空費+滞在費+海外保険+生活費 = 約38万 円 その内、財政支援 80,000 円 (財源: JASSO)
渡航のための準備 Preparatory activities (事前研修プログラム、独自での語学勉強、下調べなど) <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修プログラム ・ワクチン接種証明書や Visit Japan への登録、留学許可証の準備 ・日常英会話の勉強 ・イギリス文化や習慣についての下調べ 	
<p>渡航経験からの学び What I learned from this experience?</p> <p>今回のSAPプログラムでは多くの経験をする事ができました。特にホームステイとフィールドトリップが印象に残っています。今まで数週間にわたる海外滞在を経験したことがない私にとって、今回のプログラムに参加することは不安なことも多かったですが、ホストファミリーが丁寧に接してくれたおかげで、最後まで楽しく過ごすことができました。</p> <p>今回のプログラムでは、元々フィールドトリップとして Hardwick Hall と Warwick Castle に行くことは決まっていたのですが、ストライキの影響で Harrogate や Metlock Bath、アイススケートにも行くことができました。建築物の見学やイギリスの歴史、地方ごとの街並みを見聞きすることができ、貴重な経験となりました。</p> <p>授業に関して、最初はほかの国から来た留学生の積極性に驚きました。授業が生徒主導で進んでおり、授業の中でも日本との違いを感じることができました。そして、英文法の授業の中で、英語で文法を説明することが難しく苦勞することが多くありましたが、説明する力を鍛えることができたと思います。また、週に1回オンライン授業があり、そこではイギリスのエチケットやイギリス国内の社会の変化について学ぶことができ、とても興味深かったです。3週間という短期での海外滞在ではあったものの、多くのことを学ぶことができ有意義な時間となりました。</p> <p>最後に、このプログラムに参加することは私にとって挑戦でしたが、参加して良かったなと思います。</p>	  <p>写真の説明 legends of photo 上: フィッシュ・アンド・チップス 下: Warwick Castle</p>
おすすめポイント reason for recommendation このプログラムでは、様々な国から来た留学生と共に学ぶことができるため、イギリスだけではなく、他の国の文化や風習を学ぶことができます。そして、ホームステイを行うことで、日常英会話が上達すると思います。シェフィールドは、イギリス国内でも治安が良い地域と言われているため、危険を感じる場面は少ないと思います。	